

報道発表資料

相談解決のためのテストからNo. 127

平成31年1月17日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

乾電池の液漏れによって重度の化学やけどを負った農薬散布器

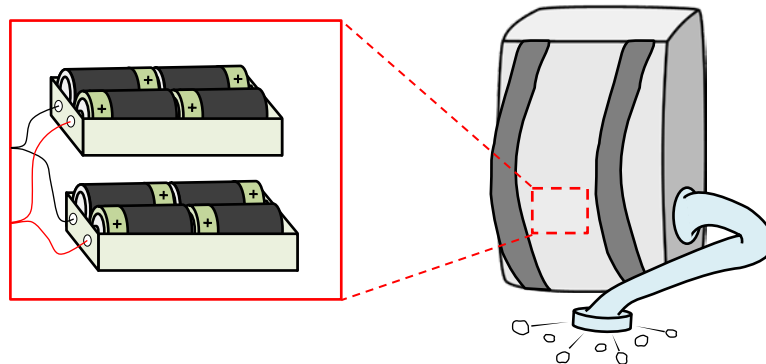
1. 依頼内容

「乾電池式の農薬散布器で除草剤を散布したところ、乾電池から液漏れが生じ、腰のあたりに化学やけどを負った。液漏れが生じた原因を調べてほしい。」という依頼を受けました。

2. 調査

当該品は、粒状の農薬や肥料をモーターの回転によって拡散させる背負い式の散布器でした(図1)。当該品の駆動には、単1形アルカリ乾電池が計8本(2組の電池ボックスに4本ずつ)使用され、背負った際に使用者の背中から腰にあたる位置に収納されていました。

図1. 当該品の構造



当該品を調査したところ、1組の電池ボックスに使用されていた4本の乾電池のうち、3本に液漏れが生じた痕跡が見られました。また、相談者は保管の際に各電池ボックスから1本ずつ抜いた状態で保管していたとのことでした。そこで、使用する乾電池のうち1本を逆に装填(そうてん)したことを想定したテストを行ったところ、当該品と同様に乾電池から液漏れが生じました(写真)。

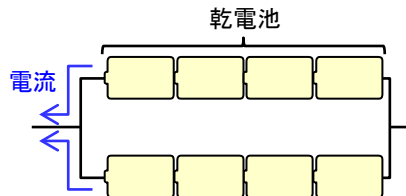
写真. 乾電池からの液漏れの様子（マイナス極側）



当該品に使用されていた乾電池は充電してはいけないものでした。このため、乾電池が1本逆装填されたことによって電圧のバランスが崩れ、他の3本の乾電池が強制的に充電される状態となり、乾電池の内圧が上昇し、液漏れに至ったものと考えられました（図2）。また、相談者は漏れ出たアルカリ性の液体が皮膚に触れたことで化学やけどを負ったものと考えられました。なお、当該品の電池ボックスは、乾電池を逆装填したときに通電を防止する構造にはなっていませんでした。

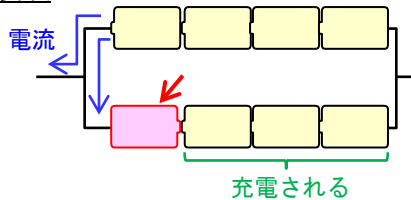
図2. 逆装填により乾電池が充電されるイメージ

通常



4本の乾電池が直列で接続された電池ボックスを2個並列で接続された構造であり、電圧のバランスが取れた状態。

1本逆装填



乾電池を1本逆装填することによって、電圧のバランスが崩れて3本の乾電池が充電された状態となる。この結果、液漏れに至る。

3. 解決内容等

依頼センターがテスト結果を事業者に説明したところ、相談者に治療費等が支払われたほか、今後はわかりやすい注意喚起表示及び乾電池を逆装填したときの通電を防止する対策を行うとのことでした。

4. 消費者へのアドバイス

当該品に限らず、乾電池の方向を誤って装填すると、充電してはいけない乾電池が強制的に充電され、液漏れや破裂の原因となる場合があります。乾電池を使用する際には、方向を確認するとともに電池ボックスや動作に異常がないかも併せて確認しましょう。なお、消費者庁及び当センターでは、これまでに乾電池の使用方法についての注意喚起を行っています。

（参考）平成30年7月20日公表「電池の発熱、液漏れ、破裂に注意しましょう！－災害用の懐中電灯やラジオの点検を－」 http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20180720_1.html

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165